ジャパンハートが
大切にしている3つのこと

自分の人生と同じように、相手の人生を大切にする

私たちは、自他を信頼し、思い遣りの心を持ち、謙虚さを忘れず
感謝することこそが、互いの人生の価値を高めると信じます。

◆

社会全体の幸福最大化を常に考え行動する

私たちは、社会の一員として、
今日よりよい明日を創るべく、向上心を持ち挑戦し続けます。

◆

出会いを最高の価値あるものにする

私たちは、国、人種、政治、宗教など相手の境遇を問わず、
出会えたすべての人に対し一丸となって最善を尽くします。

Japan Heart

特定非営利活動法人 ジャパンハート

お問い合わせ

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局　〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10　1510 ビル 3 階
TEL. 03-6240-1564（平日10～17時） FAX. 03-3845-6530　E-mail：publicity@japanheart.org　URL：https://www.japanheart.org

※本書の一部または全てを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

年次報告書

2021.4.1～2022.3.31

2021 Annual Report

第5回
ジャパンSDGsアワード
SDGs推進副本部長
（外務大臣）賞
受賞

目の前のひとりの生まれてきて良かったを、日本の医療から

一度に何百、何千人の役に立つプロジェクトではないかもしれない。
けれど、目の前で助けを必要としている人がいる限り、
私たちは「一人ひとりの人生と向き合い、心を救うこと」を続けます。

写真：ラブグラフ

Vision ビジョン

すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful for the gift of life.

Mission ミッション

医療の届かないところに医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、
治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。

Japan Heart

ジャパンハートは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

ジャパンハートは、誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現するため、医療・福祉分野をはじめ様々な活動を実施しています。私たちは、子どもたちの未来のために「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の達成に貢献します。この報告書では、紹介する各プロジェクトに関連したSDGs目標のアイコンを併記しています。

https://www.un.org/sustainabledevelopment/

CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション
SDGs 達成への貢献／目次 …… 2-3
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ
ジャパンハートのあゆみ …… 4-5
〈2021年度活動報告〉
2021年度 TOPICS …… 6-7
2021年度の活動ハイライト …… 8-9
カンボジア …… 10-11
ミャンマー …… 12-13
ラオス …… 14
グローバル人材育成 …… 15
国際緊急救援（iER） …… 16-17
地域医療支援（RIKAjob） …… 18
SmileSmilePROJECT …… 19
活動へのご支援／広報実績 …… 20-21
ご支援いただいた企業・団体 …… 22
会計報告 …… 23

私が若い頃、1990年頃までは、日本人はそれなりに物質的に豊かになって、それが幸せだと信じていたし納得もしていた。極端な話になるが、その頃にようやく日本人は有史以来の飢えや貧困の恐怖から完全に開放され、誰もが十分に食べられる社会をはじめて達成したのかもしれない。あれから三十年以上の時間が過ぎ、日本は相対的に貧しくなったが、ふと、あの頃の日本や日本人たち、そして自分自身を思い出すとき、私たちが手に入れていた豊かさとは、大したものではなかったかもしれないと思ってしまう。

たった一度しかない人生を、毎日毎日満員電車に揺られ、何十年も会社に通い続け、朝から夜遅くまで働き続けた、その代償として得られたものは、本当にその代償に見合ったものだったのだろうか?

私自身も年々歳々、大切な人が一人また一人とあの世に旅立っていくことも多くなった。その人たちがやり残した仕事や残された子どもや家族への未練などを想像するとき、人はどんな心や想いで毎日を過ごす方がいいのかとも、深く考えさせられている。

いつものように朝起きて、いつものように顔を洗い、朝ごはんを食べ、いつものように会社や学校に向かう。その時、その瞬間までいつものように何気ない同じ毎日を生きていたはずなのに突然、不意に死が訪れる。

その生死の狭間にいる時でさえ、私たちは本当に死ぬのだろうか? ときっと疑っていることだろう。

夢や目標は確かにもっていた。しかし人生の終わりの瞬間が突然訪れたとしたら、それらを達成できなかったことを果たして後悔するものだろうか? そのことをずっと考えてきた。

そして得た結論は
多分、私は後悔はしない、だろうと。

死のその瞬間に私が点検し思い出すのは、自分の人生はいい人たちに囲まれ幸せな時間を持てたこと、そしてこうして死ぬ時まで自分が迷いながらも生きてやりたいことをやれていたこと。たくさんの失敗や後悔もあったが、それらは私の人生の中ではわずかな誤差程度の出来事となって吸収されてしまっていること、だと思っている。

死から逆算して生をみて、後悔しない私の人生とは、
いい人たちに囲まれて生きていたこと。
人並みに幸せを味わえたこと。
自分のやりたいことをやり、生きたいように生きられたこと。
そういう時間や経験を積み重ねていることなのだと理解できたのだ。

人は山の頂を目指し、たとえ途中で力尽きても、その頂を目指して道の途中で斃れればそれなりに幸せなのだと感じている。

夢や目標は叶わなくてもいいのかもしれない。しかし、必死に、本気でその道の途中にいなければならない。

どうせ何も持たずに生まれてきたのだ。死ぬときは何も持たずに死んでいければ最も効率良く生きたことになる。

手に入れた地位も名誉も、お金もすべてこの世に放り投げて死んでいけたら人はどんなに気持ちいいのだろう。

そういう生き様を和合というのかもしれない。

正に円を描くように生きて死んでいく。

皆さんのその円の一部分の時を、ジャパンハートの活動のために利用してもらえれば幸せだなぁといつも思う。

人間はせいぜい長くて100年間の人生。

患者たちだけでなく、この活動に関わるすべての人たちがその生の密度を高め、十分にその生を深めていけるように、私たちはその活動の扉を大きく開き、次のステップにすすんでいこうと決意している。

ジャパンハート最高顧問
ファウンダー
小児外科医

ジャパンハートのあゆみ

1995
- **吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始**

2004
- **国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立**
- **《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始**
- 国際長期研修開始（現・国際看護師・助産師研修）

2008
- 《日本》東京事務局開設
- 《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
- **《日本》僻地・離島支援（現・RIKAjob）開始**
- **《日本》心の医療事業（現・SmileSmilePROJECT）開始**
- 自由都市・堺　平和貢献賞　奨励賞受賞
- **NPO法人格取得**

2009
- **《カンボジア》医療支援活動を開始**

2010
- **《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設**
- 《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設

2011
- **《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始**
- **12月、宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設**
- 《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
- 「認定NPO法人」として認定を受ける

2012
- 大山健康財団賞受賞

2013
- **《ラオス》医療支援活動を開始**
- **《フィリピン》台風30号緊急医療支援**

2014
- **《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始**
- 外務大臣表彰
- 沖縄平和賞受賞

2015
- **《ミャンマー》大洪水　緊急支援**
- 《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始

2016
- **《日本》熊本地震　緊急支援**
- **《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開院**
- 《ミャンマー》小児心臓病サポート開始

2017
- 社会貢献者表彰受賞
- 保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
- 《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始

2018
- 《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
- **《インドネシア》スラウェシ島地震 緊急支援**
- 第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞　受賞

2019
- 《カンボジア》「長沼給食センター」設立、患者への給食提供開始
- 第7回エクセレントNPO大賞「大賞」及び「市民賞」受賞

2020
- 《日本》令和2年7月豪雨を受け、熊本県で緊急支援
- 同県と「大規模災害時等における支援活動に関する協定」を締結
- **新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生施設などで医療支援を開始**
- 国連UNIATF賞受賞

2021
- 《日本》令和3年8月豪雨を受け、佐賀県で医療支援活動
- **《日本》全国初の要介護濃厚接触者隔離施設を沖縄県に設置**
- 第69回 菊池寛賞受賞（吉岡秀人）
- 第5回 ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣）賞受賞

TOPICS

ウィズコロナでの新たなる挑戦

前代未聞の混乱の年となった2020年の経験を踏まえ、コロナ禍における状況と向き合うなかで、課題と“自分たちが今すべきこと”が見えてきました。様々な制約を受けながらも最大限できることを模索し、これまで以上に人々の命と心を救えるよう新たな試みに挑んでいます。

現地医療者の成長と独立

嘉数真理子
ジャパンハートこども医療センター 小児科部長

自分たちで何とかするしかない、今だからこそ。日本人医師に頼らなくても高度な医療を提供できるように

カンボジア人医師によるオペ

――2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた水際対策により、ジャパンハートの活動地でも国境を越えた渡航が大きく制限されました。そのため、これまで年間数百名に上っていたボランティア医療者の渡航はほぼ不可能に。高い技術を持った日本からのボランティア医療者にさまざまな面で力づけられていたジャパンハートこども医療センターですが、この状況下で治療のやり方を大きく変える必要に迫られました。

これまでは日本のボランティア医師に依頼していた治療でも、現場にいるスタッフのみでこなさなければなりません。そこで私たちは考え方を変え、これをカンボジア人医療者育成のための奇貨と考えることにしました。

これまでは、カンボジア人の医師にも看護師にも、日本から来るボランティアの医師たちに任せていれば良いという気持ちがあったことは否定できません。しかし、自分たちでやるしかないという環境におかれたことで、スタッフ一人ひとりの覚悟と責任感が強くなりました。

今までは「こんなに難しいケースは、日本のお医者さんなしには診られない」とされていた患者さんでも、カンボジア人医師が自ら診察せざるを得ません。そこで、日本の医療者とは渡航の代わりに小児がん患者の治療についてオンラインで相談するカンファレンスを隔週で実施。カンボジア人医師が患者さんの経過をまとめてプレゼンし、日本人の専門家から適切なアドバイスを受けることで、カンボジア人医師をメインとして個々の患者さんに最適な治療を行うことができるようになりました。

身に付けたのは知識だけではありません。長い隔離期間をものともせず単身カンボジアに渡航した吉岡秀人の指導の下でさまざまな手術の経験を重ねた現地スタッフは、今では難易度の高い手術も中心となって実施できるようになっています。

カンボジア人スタッフが確実に成長する様子を見守ることは、現場で活動する日本人スタッフの自信にもつながりました。今後も現地スタッフの育成を続け、カンボジアの人々に質の高い医療を提供できる体制を構築していきます。

オンラインカンファレンス

Pick UP 献血イベント開催

カンボジアでは、輸血パックを利用するためには、必要な数と同じだけの献血者を患者や家族が確保する必要があります。治療中に輸血が必要となる小児がん患者さんが多く入院する当院では、献血の確保が困難でありながらとても重要です。そこで、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止していた献血イベントを約1年ぶりに実施。病院近辺に住む地元住民の方が多数集まり、支えてくれました。

企業でも、行政でも、手の届かないところを救う

高橋 茉莉子
地域医療・国際緊急救援事業部長

誰もやらないのであれば、私たちがやろう。コロナ禍で取り残された人たちに救いの手を

――新型コロナウイルス感染症第4波の収束後となる2021年11月、ジャパンハートは、沖縄県宜野湾市に要介護濃厚接触者隔離施設を全国で初めて設立しました。

発端は、2021年6月。沖縄県の要請を受け、クラスターとなった有料老人ホームの支援に入った経験です。平時10名弱の入所者は多くが陽性となって入院調整がつき、施設内に残った入居者は3名の濃厚接触者のみ。しかし、施設職員自身の感染や、ダブルワーカーが出勤を辞退したことで、施設長が36時間勤務を繰り返す過酷な状況でした。

ゾーニングが難しいクラスター施設内の濃厚接触者は、検査こそ陰性ですが感染可能性が高く、陽性者と同等の対策でケアに臨む必要があるため、一般病床や他の陰性者がいる施設では受け入れが困難です。むしろ、陽性者同士であれば転用出来る機材も、濃厚接触者同士はどちらか一方のみが感染している可能性を考慮しての使い分けが必要で、安全の確保が難しいうえに、混乱した現場では多大な業務負荷となり得ます。加えて、在宅介護の環境では、介護者が罹患して入院した場合、要介護の濃厚接触者が自宅に取り残されてしまう深刻なケースが散見されました。これは高齢者に限らず、医療的ケアが日常的に必要な子ども達も同様です。

陽性者やクラスター現場への対応は、病床拡充や応援派遣制度などで進んだ反面、濃厚接触者への対応は手薄で、診療報酬補助などもなく事業所が介入しない「医療の届かないところ」となっています。

看護師スタッフが丁寧なケアを行う

こうした事情を受けて開設した要介護濃厚接触者隔離施設の累計受け入れ人数は、日数ベースでのべ約260名（2022年7月末時点）。「利用したことで通常営業再開までの期間が短縮され、職員と入所者の負荷が格段に減った」「介護が必要な家族を家でひとりにするのが心配だったが、24時間体制で看護師が看てくれて安心だった。しかも利用中に家族では気付かなかった傷病が分かり、退所後の医療につないでもらった」などの声をいただいています。

スタッフと協力医療機関の方で集合写真

本施設の開設と受け入れは、県庁コロナ対策本部や周辺医療機関・福祉施設との連携の下で行っています。社会や医療体制の変化に柔軟に対応し、セーフティネットからこぼれ落ちてしまったニーズを丁寧に拾う活動こそが、NPOの強みであり、存在意義であると強く感じています。

Pick UP 現地での感染対策指導

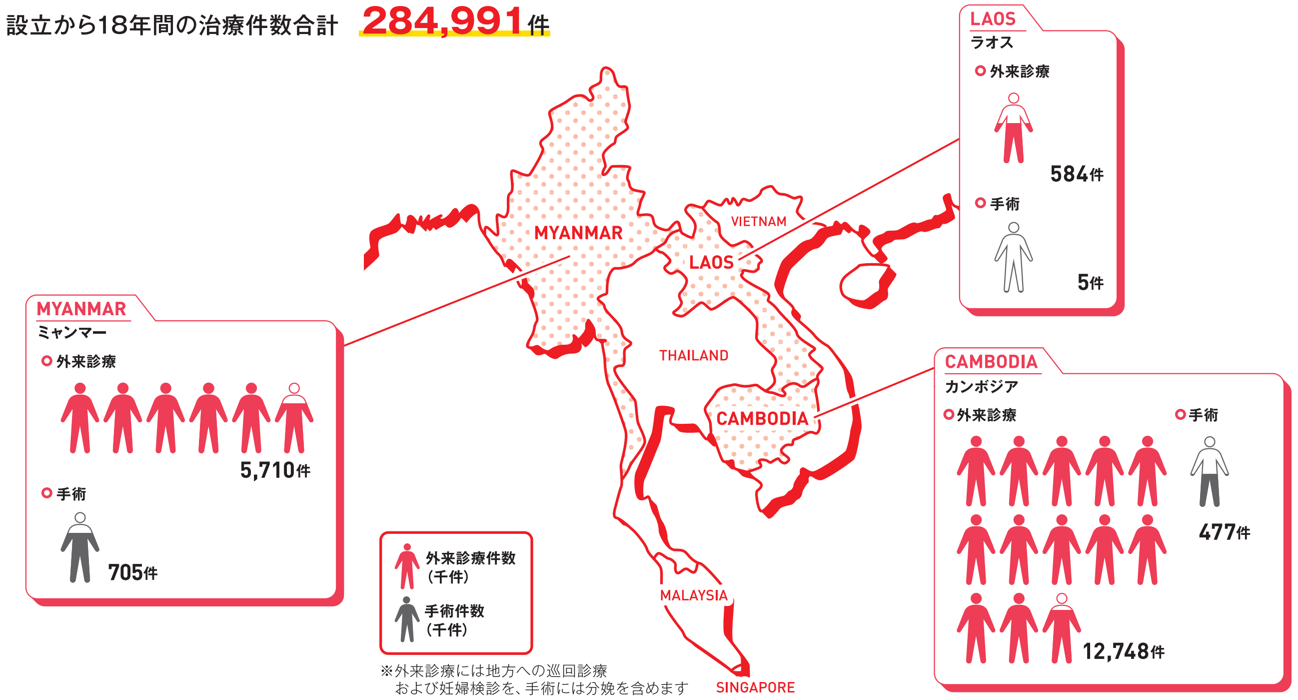
濃厚接触者隔離施設では、有床である利点を活かして、福祉施設向けにシミュレーション形式の感染対策指導を実施しています。クラスター施設支援経験の豊富な看護師が、感染防護具の着脱のほか、ゾーニングの考え方や環境整備についての説明を行いながら、患者対応時の注意点について実践式でレクチャーします。受講と合わせて感染防護具を寄贈し、万一の際の初動を迅速かつ適切に対応できるよう配慮しています。

2021年度ジャパンハート活動ハイライト

ジャパンハートの活動に共感し、協力してくださった皆様のおかげで活動を維持し、多くの患者さんに医療を届けることができました。

▶2021年度治療件数

- 2021年度海外での治療件数合計※ **20,229件**
- 設立から18年間の治療件数合計 **284,991件**



※外来診療には地方への巡回診療および妊婦検診を、手術には分娩を含めます

【ミャンマー】新たな提携先、ヨアガン病院での出張診療を開始

【カンボジア】小児がん病棟で10床増床し計55床に

ACキャンペーンスタート（第3期）

2021									2022			
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月

【カンボジア】外来診療を再開。また、他の病院が受け入れ停止するなかで小児がん患者の受け入れを継続

【カンボジア】年間新規小児がん入院数が83名となり、脳腫瘍を除く固形がんの数としては日本の小児がん拠点病院のどこよりも多くなる。
※小児がん治療開始が2018年8月のため、8月はじまりで集計

【ラオス】1年ぶりに医療活動を再開

緊急救援チームが佐賀豪雨の現地支援を実施

吉岡秀人、第69回菊池寛賞の受賞決定
※写真は12月開催の贈呈式

米国The Coca-Cola Foundationが、医療関係者への個人用感染防護具支援のため125万ドル（約1億4千万円）の助成金をジャパンハートに提供

全国初の要介護濃厚接触者隔離施設を、沖縄県宜野湾市に開設

国内の認定NPOとしては初めて、Amazon Payに対応したAlexaスキルを活用した寄付方法を導入

「第5回ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長（外務大臣）賞受賞

セント･フォースとのタイアップ企画「セント･フォースから小児がんの子どもたちへ贈るクリスマスチャリティイベント」を開催

【カンボジア】コンポンオスヘルスセンターで初めて巡回診療を実施。77名の患者を診察

【ラオス】大使館主催「ジャパンフェスティバル」に参加し、現地の人々へ活動をPR

コロナ救援事業部によるクラスター支援の派遣数が350を突破

吉岡秀人がNHKの人気シリーズ『最後の講義』に出演

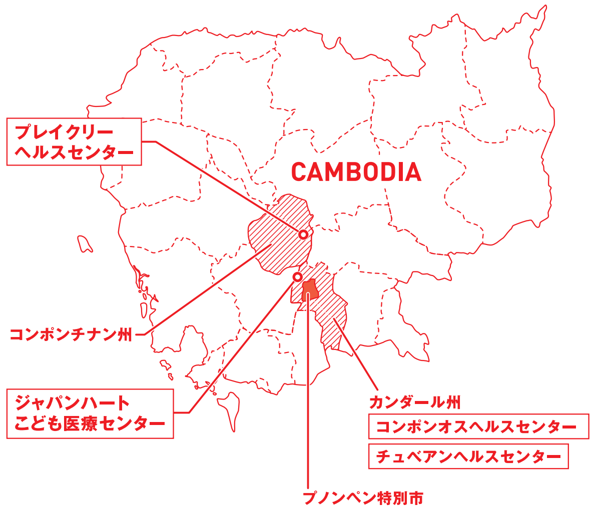
Heart Stock

災害発生時の物資支援体制の強化を目標に、富山福祉短期大学、北陸ポートサービス株式会社との三者連携を開始

カンボジア

Cambodia

継続することの厳しさと直面しながらも
さらにもう一歩先、新たなフェーズへ



20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
当時残った医者は
40名程度だと言われている。
貧しい人々に医療の届かないこの国では、
1歳に満たない子どもが
年間約8千人も亡くなっている。

▶医療活動

SDGs目標

2021年4月からは、カンボジア国内でも新型コロナウイルス感染症が徐々に拡大。7月には外来の診療を一時休止せざるを得なくなりました。その中でも、小児がん患者については止まることなく受け入れを継続しました。

カンボジアでは、小児がんなどの高度医療を求めてタイやベトナムなどの隣国に治療を受けに行く人が少なくありませんが、感染症対策の強化により隣国への移動が規制されたことで、国外で高度な医療を受けることが困難になりました。カンボジア国内で、無償で小児固形がんを治療できる病院はジャパンハートこども医療センターしかありません。そのため、当院にカンボジア全土から患者が集まり、小児がん患者の入院者数が増加した結果、当院での小児がん患者の診療数は累計200件を超えました。

年明けからは新型コロナウイルス感染症の感染者数が落ち着いてきたため、状況を慎重に見ながら以前の活動を再開。2022年1月には、およそ11カ月ぶりに巡回診療活動を再開し、地域連携病院にて診療や手術を行いました。2月からは、地域診療にも注力すべく、当院が所在するポンネルー地区にて医療インフラが脆弱なコンポンオスコミューンのヘルスセンターと協同したモバイル診療を開始しました。コンポンオスで初めて開催されたモバイル診療には77名の住民が参加。より多くの人に、必要な医療を届けられるようになりました。

実績 **診療：成人9,645件、小児1,629件**
手術：成人345件、小児117件（内、小児がん78件を含む）
妊婦検診：1,362件（内、分娩15件、モバイルでの検診を含む）
巡回診療：153件

活動地 **［カンダール州］ジャパンハートこども医療センター／ポンネルー病院／コンポンオスヘルスセンター／チュベアンヘルスセンター　［コンポンチナン州］プレイクリーヘルスセンター**

▶栄養管理

SDGs目標

2019年度から2021年度の3年度にわたり、公益財団法人 味の素ファンデーションの助成により実施してきた「ジャパンハートこども医療センター給食プロジェクト」が、無事に終了しました。患者が入院中だけでなく退院後も衛生的で栄養のある食事摂取ができるようになることを目的としたこのプロジェクトでは、衛生的、かつ栄養バランスの良い給食の提供にとどまらず、栄養管理を担えるカンボジア人スタッフの育成や、患者家族への栄養についてのレクチャーなど、将来を見据えた活動も展開しました。

▶周産期事業

SDGs目標

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、7月からは外来の診療が停止。周産期事業部では、受け入れを問題がある母児のみに制限することを余儀なくされました。直接患者を診ることができない歯がゆさを感じながらも、妊娠中のお母さんに連絡して状態を確認するなど、できることに取り組みました。一方、受け入れを制限していた間は、空いた時間を活用してカンボジア人助産師の育成を強化。新人スタッフ向けの基礎知識の確認資料をカンボジア人スタッフが作成するなど、知識と実践を結びつける努力を重ねました。

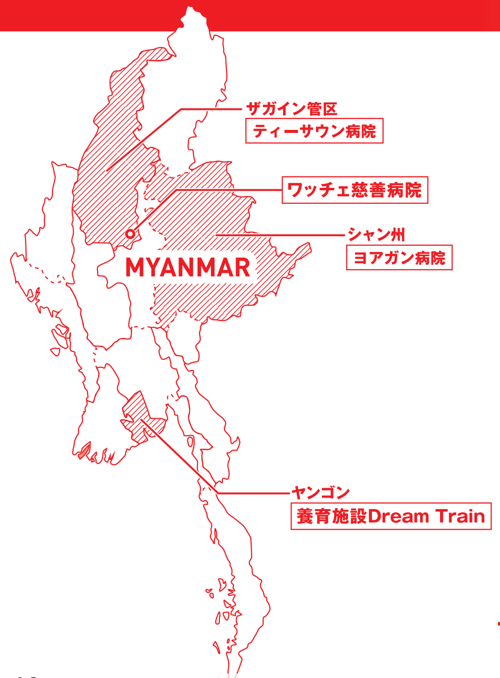
▶医療学生育成活動「夢の架け橋プロジェクト」

SDGs目標

2020年度は5名の新しい奨学金候補生が入学に備えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で入学時期の目途が立たないままでした。彼らは大学が再開した2021年7月、無事に入学。学生寮でのオンライン授業を中心とした学業に励みはじめました。一方、2022年3月には2名の奨学生が看護学部を卒業。ジャパンハートこども医療センターで看護師として勤務を開始するなど、着実に次世代医療従事者の育成につながっています。

ミャンマー
Myanmar

混沌とした状況が続く中でも
希望を見失わず常に挑戦し続けた1年



都市部の発展が進むミャンマー。
しかし、国土のほとんどを占める農村部には
貧しい村々が広がる。
保険制度も整っておらず、貧しい人々は
病院へ行くことを諦めてしまう。
そして国境地域では、貧しさゆえに、
子どもたちがたった数万円ほどで人身売買されている。

▶医療活動

SDGs目標

ミャンマー事業の2021年度の活動は、同年2月に発生したクーデター後の混乱状態の中でスタートしました。インターネット通信が一部遮断され、治安も不安定、それに加え国の医療体制を支えるべき国公立病院が機能しない中での2021年7月にミャンマーを襲った新型コロナウイルス感染症の第3波は、ミャンマーに大きな打撃を与えました。街中に薬や酸素を求める人々が長蛇の列をなし、火葬場には処理しきれないご遺体が山積みとなり、国内の至る所で地獄のような光景が広がっていました。

このような状況下で、リスクを避けながらも私たちにできることは何かを常に考え、これまでの歩みを止める事ないよう黙々と活動を続けた1年でした。

医療活動としては、本拠地であるワッチェ慈善病院での活動に加え、遠隔地の慈善病院2カ所で月1回ずつ、手術も含めた定期的なモバイル診療活動を継続。5,710件の外来診療と705件の手術を実施しました。日本人医療者のミャンマー入国が叶わない中、これらの活動のすべてをミャンマー人医療スタッフが担ってきました。医療体制が崩壊している中での彼らの奮闘は、治療を求める患者さんたちにとって、大きな希望の光となったに違いありません。

また視覚障がい者自立支援事業では、昨年度に引き続きオンラインでの講義を継続。サイクロン被災児童への教育支援や、医療系大学生への奨学金支援も引き続き行っています。

困難にありながらも、前を向いて生きようとするミャンマーの人々の強さに導かれながら、様々な活動を継続してこられたと言っても過言ではありません。苦境の中で輝く希望を見出した1年でした。

実績 ワッチェ　外来診療1,947件・手術27件
巡回診療　外来診療3,763件・手術678件

活動地 ワッチェ慈善病院、ヨアガン病院、ティーサウン病院、Dream Train（ヤンゴン）

▶養育施設 Dream Train（ドリームレイン）

SDGs目標

2021年7月、ミャンマーに新型コロナウイルス感染症の第3波が到来し、ピーク時には陽性率が40%を超える状況となりました。不運にも、子ども達の通学がようやく再開し、外部との接点が増えたところでした。本格的な雨季が始まったことも相まって、その後、施設でも体調不良者が急激に増加しました。

まるで嵐の中にいるような状況の中、子どもたちの心を支えたのは、オンラインイベントです。定期開催されるオンライン授業の先生方や交流会にてお会いした支援者の方々など、外部とのつながりを感じさせてくださる皆様は、子どもたちの希望でした。また、新たに開始された理科のオンライン実験教室は、長らく通学ができない子どもたちの学業へのモチベーションを保つ効果もありました。

とは言え、年間を通して通学できた期間は、5カ月間のみ。大学入学試験の実施が確定したときには、喜びよりも不安が先に立ちました。しかし、結果は、ヤンゴン市内の平均合格率が46%の中、57%の合格率を達成することができました。施設設立から12年目にして、初めての過半数超えです。

苦境を乗り越えた子どもたちを見ると、彼ら彼女らがいかに強い人間であるかを実感させられます。これが今年だけの結果で終わらないよう、子ども達の力を信じて引き出し、施設の文化や習慣となるまで継続させることが、私たちスタッフに課せられた責任なのだと感じています。

いまだ不安要素がそこかしこに潜むミャンマー。しかし、止まない雨はありません。ミャンマーの雨季に何度も体感させられてきたこの言葉に背中を押してもらいながら、これからも進んでいきます。

ラオス
Laos

現地医療者の存在に助けられた1年
信頼関係こそ活動継続の要

▶医療活動

SDGs 目標

2021年度は、ラオス事業部にとって現地医療者の存在を力強く感じた年でした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、国外から医療者を招いて医療活動をすることができなくなった今年度初頭、どうにか活動を継続させたい、と関係者で悩みぬいた結果、インターネットを活用した手術活動を実施することを決めました。

人の命に関わる活動だからこそ、「とりあえずやってみよう」は通用しません。日本にいる医師にビデオ通話で手術の様子をお見せし、遠隔での監督を依頼。患者さんも比較的リスクの低い方を優先しました。結果、無事に現地外科医の手で5件の甲状腺疾患の手術を成功させることができました。

コロナの影響を受けたのは、内科治療活動も同じです。10月頃より1日当たりのコロナの感染者数がウドムサイ県でも増加。11月に入ると、ウドムサイ県病院の外来診療が全面的に停止されました。「患者さんを病院内に集めることができないのであれば、外で診療はできないだろうか」「診療の人手が足りないのであれば、私たちが現地病院に行き、何か手伝えないだろうか」など、懸命に知恵を絞りました。

いよいよ、私たちの提案をまとめて病院に打診しようと決めた週のこと。病院から外来を再開し、それに合わせて内科診療の再開も決定した、との知らせを受けました。外来停止から約2カ月後の1月20日、ようやく再開した内科診療。以降、3月末までに8度の内科診療活動を実施し、合計248名の患者さんを診察することができました。

現地医療者らの率先した協力を得ることほど、心強いことはありません。これからも病院関係者と深く連携し、よい関係を築いていきたいと思います。

実　績　**診療584件・手術5件**

活動地　**ウドムサイ県病院、ヴィエンチャン特別市**

グローバル人材育成

SDGs 目標

▶看護師・助産師ともに、すべての人が生まれてきて良かったと思える社会を実現する

ジャパンハート創設時より始まった本研修には、これまで300名以上の看護師・助産師が参加しています。前年度同様、2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴う海外各国の水際対策により、海外での活動制限を受けました。

そのような制限下で、研修生たちは「できないこと」ではなく「いま私たちにできること」を意識。社会からの要請に応える形で、日本国内でのクラスター発生施設での支援活動をはじめ、国内離島・へき地など、看護師人材の不足している地域で精力的に活動を行いました。

どの活動地からも、研修生の柔軟性、順応性に対する高い評価をいただきました。これは私たちが目指してきた"人間力の高い人材"の育成の成果です。

ジャパンハートのグローバル人材育成事業では、途上国と国内離島・へき地での活動を通し、看護師・助産師という枠を越えて、「人間力の高い人材」の輩出を目指しています。途上国では不安定なインフラ、限られた医療資材と医療者の中で「患者さんにとって最善の医療」に全力で取り組みます。不便な環境の中で、できない理由や理由を並べるのではなく、あるモノで何ができるかを考える力を養い、知恵を付けることが求められます。自分の中の「当たり前」が当たり前ではない世界で、自分の在り方まで問われることで、看護・助産の実践能力のみならず、人間力も身につけるのです。

▶研修内容のアップグレード

主力事業の看護師・助産師を対象とした「国際看護師・助産師研修」は、「グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース」に名称を変更。看護師・助産師が持つ能力の開発、最大化を目的に研修内容をさらに見直し、ジャパンハートのミッションを体現できる人材の育成を行います。

今後は私たちが開発したい能力をより具体化し、外部講師による研修や、各活動地のスタッフと連携して研修内容を充実していきます。

国際緊急救援

iER：International Emergency Relief

SDGs目標

▶新型コロナウイルス感染症緊急救援

2020年4月以降、新型コロナウイルス感染症への対応を継続しています。クラスターの発生した医療機関や福祉施設に、看護師を中心とする医療チームを派遣しており、欠員の補填に加えて自治体と連携して感染制御のためのゾーニング提案を行ったり、感染防護具着用指導や環境整備など、現場の状況に合わせた支援がジャパンハートの強みです。

特に第6波においては、大阪府の要請を受けて大阪市保健所にジャパンハートとしてクラスター支援班を設置。市の保健師と連携し、約20日間で33件のクラスター施設支援と、酸素待機ステーションや救急搬送患者のPCR検査を実施するトリアージセンターの運営をサポートしました。

全国的な感染が拡大する中、最大限の支援を継続するとともに、社会や行政による方針の変化に柔軟に対応することで、「誰もとり残さないための活動」を行っています。

実　績　**派遣件数：117件**（2020年度からの累積153件）
派遣者数：のべ252名（2020年度からの累積のべ393名）

▶令和3年８月豪雨災害緊急救援

2021年8月11日から、九州北部を中心に全国各地で記録的な大雨が続きました。ジャパンハートは、浸水など3,500件を超える住宅被害があった佐賀県に、8月18日より先遣隊を派遣し、武雄市および大町町の調査を実施。避難所への物的支援と、新型コロナウイルス感染症対策面での改善提案などを行いました。特に大町町では、ため池が多く堤体の決壊による二次災害の懸念もあり、緊張が続いていたことから、9月5日から17日まで看護師を派遣し、他団体との協働のもと在宅避難者の健康観察を目的とした巡回を実施しました。

実　績
派遣者数：4名

▶物的支援活動

医療／介護福祉施設限定コミュニティ「ジャパンハートソーシャルネットワーク」は登録者数が950名を超え、同コミュニティ内で展開している寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」では、感染対策物資や日用品など、累計134件のマッチングが成立しました。

また、コカ・コーラ財団からの支援を受け、全国の医療機関や福祉施設に新型コロナウイルス感染症対策として感染防護具を寄贈するプロジェクトを2021年11月より実施しています。2022年3月末までの寄贈件数は全国121件となっており、クラスター発生時に介入を行う訪問看護ステーションとも連携のうえ、訪問看護ステーションから支援先施設に寄贈が可能な仕組みをつくり、必要な場所に迅速に物資を届ける取り組みを行っています。

ジャパンハート
ソーシャル
ネットワーク ▶

▶iERボランティア登録研修

2021年度は2回の新規登録研修を実施し、新たに47名がジャパンハートiERボランティアのメンバーとなりました。

また、既存登録者向けに知識と心構えを見直すステップアップ研修（医療従事者向け／ロジスティクス向け）の開催を行い、合計39名が参加しています。

実施研修
第7回新規登録研修（6月26日･7月3日）
第8回新規登録研修（12月11日〜12日）
医療従事者ステップアップ研修（2月27日）
ロジスティクスステップアップ研修（3月17日）

地域医療支援／RIKAjob

SDGs 目標

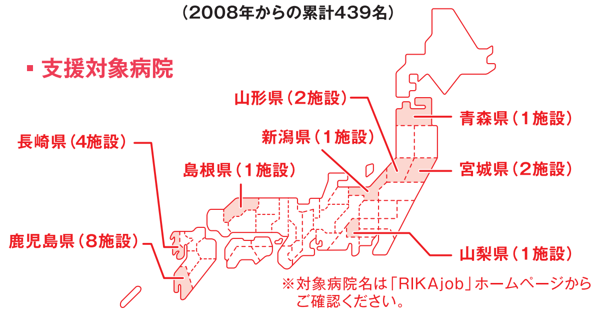
▶新たに5施設が参加、働きやすさの改善に向け継続的にサポート

2018年から始まったRIKAjob（リカジョブ）は、日本国内の離島・へき地で深刻な問題となっている看護師不足と向き合い、RIKAjobのWebサイトを通して看護師を募集し、各病院につなげることによって地域医療を支えています。2021年度は、新たに山形県新庄市・東田川郡庄内町、新潟県村上市、長崎県小値賀町の5つの病院と施設が加わりました。また、定期的に病院を訪問し、職場が抱える課題や生活環境の改善に努め、現地での勤務期間の延長にも取り組んでいます。

RIKAjobが支援している病院は、その地域で唯一の病院であることも多く、命の最後の砦として救急医療から慢性期医療、在宅医療まで幅広くカバーしています。都会の病棟勤務では経験できない多岐にわたる症例に携わるため、柔軟に幅広く対応する総合力が身につくと共に、退院後の患者さんの生活に触れることで、「その人の人生を見据えた医療の在り方」を考えることにもつながります。RIKAjobは、まだ見たことのない場所での出逢いと、一人ひとりの患者さんと向き合う時間を求める看護師のサポートをしています。

実　績　派遣病院・施設数：20
派遣者数：看護師62名、助産師6名
（2008年からの累計439名）

▪ 支援対象病院



※対象病院名は「RIKAjob」ホームページからご確認ください。

▶災害支援スキームを展開、感染症対策で活躍

参加する看護師・助産師が、平時はRIKAjobが支援する病院を通じて地域医療に従事し、自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大など、有事の際は支援活動に参加することができる仕組みを2021年3月に構築し、本年度から本格的に実施。このスキームへの初年度の参加人数は10名となりました。

令和3年8月豪雨の被害を受けた佐賀県での被災地支援では、このスキームに参加した看護師が初めて災害支援に出動。その後、新型コロナウイルス感染症の対応として続々と全国に派遣され、感染制御および現場医療従事者のサポート役として活躍しました。（詳しくはP.16をご参照）

SmileSmilePROJECT

SDGs 目標

SmileSmilePROJECTでは、小児がんと向き合う子どもたちとご家族が大切な時間を過ごせるよう、医療者が付き添い、旅行のサポートをしています。

2021年度は、297名の子どもたちとご家族の旅行サポートを実施し、のべ154名のボランティアの方にご協力いただきました。これからも小児がんと向き合う子どもたちとご家族の力になれるよう、活動を続けてまいります。

個別企画＞2021年度は、前年度比165％となる33件の個別企画を実施しました。人気のディズニーリゾートなどのテーマパークの他、全国各地の温泉旅館なども訪問し、ご家族でゆっくりと時間を過ごしていただくことができました。

招待企画＞一休宿泊企画を含め、計14件実施しました。多くの企業にご協力いただき、ハウステンボスやキッザニアなど、各地のレジャースポットにご家族をお招きすることができました。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでのご招待企画は、本年度が初めての実施。こちらにも、多くの子どもたちとご家族にご参加いただきました。

ご家族からのお便り

「ユニバーサル・スタジオ・ジャパンご招待企画」に参加

「病気発覚前の我が家といえば、週末になれば3人でどこかへお出かけするのが定番の過ごし方でした。そんな中ネットで見かけたUSJご招待企画。また行きたいなーと漠然と思っていましたが、病気治療中の娘を連れては不安しかありません。なので医療従事者の方に引率してもらえるのは安心、是非参加したいと思い応募しました。当日は朝から常に体調を気遣ってくださりました。病気のことなんてすっかり忘れて家族3人楽しい時間を過ごせました。今年は保育園の遠足にも行けず寂しい思いばかりさせてたのでとびきりのプレゼントになりました。送ってもらった写真を見返しては楽しい思い出が蘇り、また長く続く通院生活も頑張れそうです。この企画をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。」

活動へのご支援

私たちの活動は、皆様からのご寄付によって成り立っています。
いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところに医療を届ける」ため、大切に使わせていただきます。

ジャパンハートは認定NPO法人です。
ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。
所得控除の場合、（寄付金額—2,000円）×40％の額が所得税から控除されます。

《控除の対象とならないもの》
- 会費
- イベント/ボランティア活動/研修などの参加費
- 募金箱への募金
- 匿名寄付

継続的な寄付（マンスリーサポーター）

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

【ベーシックプラン】
3,000円／月
1年間で約70名の患者さんを診察できます。

【スタンダードプラン】
10,000円／月
1年間で約10名の患者さんを手術することができます。

【プレミアムプラン】
100,000円／月
1年間で小児がん患者さん1名を治療することができます。

プランに応じて一般には公開していない活動詳細および現場の声など特別コンテンツの閲覧、サポーター限定講演会へのご招待など、ジャパンハートや国際協力／医療支援をもっと身近に感じていただける御礼の場をご用意しています。詳しい御礼の内容は、ホームページをご覧ください。

▶オンライン決済（クレジットカード）
団体ホームページ「寄付をする」ページへ。
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。

▶口座からの自動引き落とし
電話、メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座振替用紙をご請求ください。

継続的な寄付に関するページはこちらから▶

今回のみの寄付

関心のある課題、支援したい分野を選択してご寄付いただくことができます。

▶オンライン決済（クレジットカード）
団体ホームページ「寄付をする」ページへ。「今回のみ寄付」を選び決済をお願いします。

▶口座への振込み

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	特定非営利活動法人ジャパンハート
記号番号	00910-3-166806

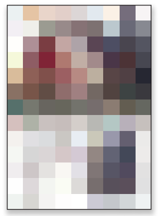
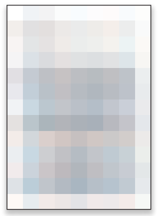
〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	トクヒ）ジャパンハート
預金種目	当座
店名	〇九九店（ゼロキュウキュウ店）
店番	099
口座番号	0166806

遺贈での寄付

遺言書にすべて、または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただくことで、大切な資産を未来のためにお役立ていただけます。
詳細資料をご用意しておりますので、以下までお問い合わせください。

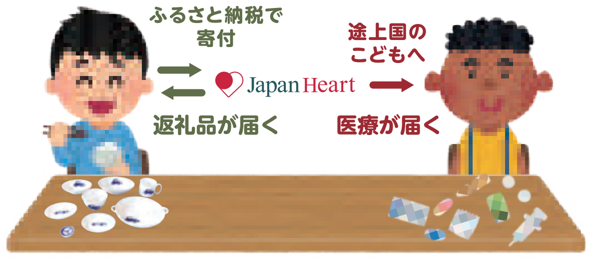
※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。
※実際の手続きを行う際は、弁護士などの専門家や、信託銀行などの専門機関への相談をお勧めします。

<お問い合わせ先>
東京事務局 遺贈担当 03-6240-1564 メール：izou@japanheart.org

ふるさと納税で寄付

2020年12月にジャパンハートが事務所を開設した佐賀県では、NPO団体を支援する制度を実施しています。
ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税（寄付）をすることで、寄付額の90％がジャパンハートの活動に活用されます（10％は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用）。
ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。（一定の上限があります）



身近な物で寄付

書き損じはがき30枚で、5歳の子ども10人に抗生物質の注射をすることができます。

❶古本で寄付する： 読み終えた本、DVD、CDなど。
❷物品で寄付する： 未使用切手や使わなくなったカメラや携帯など。
❸洋服で寄付する： 使わないブランドものの洋服など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力事業者になります。
詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

ジャパンハートアドバイザリーボード

本田 圭佑
挑戦者

田村 淳
ロンドンブーツ1号2号
タレント

吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長

小松 成美
作家

武田 双雲
書道家・現代アーティスト

樹林 伸
マルチコンテンツ
クリエイター

山田 進太郎
株式会社メルカリ
代表取締役CEO

望月 理恵
株式会社セントフォース取締役
フリーアナウンサー

松浦 美穂
TWIGGY.
オーナースタイリスト

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やマンスリーサポーター限定コミュニティ「ジャパンハート部」Facebookグループへのご参加などを通じて、私たちと活動を共にし、応援していただいています。

メディア実績

これまでの主なTV出演

2009~11年	毎日放送「情熱大陸」計3回出演
2013年	NHK BSプレミアム「輝く女」
2014~19年	テレビ東京「未来世紀ジパング」計4回出演 内閣府テレビCM 出演
2017年	フジテレビ「あいのり Asian Journey」
2018年	テレビ東京系「世界ナゼそこに？日本人～知られざる波瀾万丈伝～」
2020年	テレビ東京「カンブリア宮殿」
2020年	フジテレビ「石橋、薪を焚べる」
2020年	フジテレビ「フューチャーランナーズ～17の未来～」

2021年度の主な実績

8月	日本テレビ「news zero」
8月	読売テレビ「ミヤネ屋」
8月	テレビ朝日「サタデーステーション」
9月	テレ東BIZ「塩田真弓の『サステナブルってなに?』」
10月	朝日新聞「朝日地球会議2021」
2月	日本看護協会「看護」
2月	朝日新聞「SDGs ACTION!」
3月	NHK BS1「最後の講義」
3月	TBS「ひるおび」計2回ゲストコメンテーター出演

その他、コロナ支援において各局の報道番組や新聞での実績多数

企業・団体とのパートナーシップ

ジャパンハートは、企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、共に「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。
メール：publicity@japanheart.org または、ジャパンハート公式HP「お問い合わせ」よりお願いいたします。

▶2021年度のご支援事例

The Coca-Cola Foundation

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、医療機関・介護/福祉施設に対するマスク・ガウンなど感染防護具の提供を始めとする緊急救援活動をご支援いただきました。これにより、日本各地の医療機関・介護/福祉施設の感染対策を後押しすることができました。

ダイワボウ情報システム株式会社

2020年春から続いている新型コロナウイルス感染症対応をはじめとする、様々な形での医療を届ける活動への支援としてジャパンハートにご寄付をおよせいただき、クラスターの発生した全国各地の医療・福祉機関に対する緊急救援活動などを支えていただきました。

KDDI株式会社

NPOを支援するポータルサイト「キボウのカケハシ」を通じたご寄付のほか、「デジタルの日」（10月10日・11日）に合わせて「#au PAYで想いを贈ろう」プロジェクトを展開し、ジャパンハートを通じて国内の医療従事者をご支援いただきました。

株式会社エストインターナショナル

カンボジアでの小児がんをはじめとする高度な治療の無償提供など、国内外のジャパンハートの活動に共感し、継続的にご支援いただいています。

オリンパス株式会社

医療活動支援として寄付金をいただいた他、国内外の小児がんの実態について学ぶ社員の皆様向けの講演会で、吉岡春菜理事長が登壇しました。

新日本製薬株式会社

ご寄付のほか、SmileSmilePROJECTにご協賛いただき、社員の皆様とともに小児がんの子どもとご家族をハウステンボスにお招きする企画を実施しています。

株式会社竹虎

新型コロナウイルス感染症に対する緊急支援活動へのご寄付に加え、医療活動に必要なガウンやマスクの手配においてご協力いただきました。

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

株主優待品の選択肢として「ジャパンハートへの寄付」を設定し、株主のみなさまから集まったご寄付に加え、同社から同額をご寄付いただきました。

株式会社都光

感謝の言葉をパッケージに刻んだワイン「HOPE」の売り上げの一部を、医療従事者のためにご寄付いただきました。

株式会社ブライセン

長きに渡り医療活動や児童養育施設Dream Trainをご支援いただいています。巣立った子どもたちの中には、同社で活躍する者もいます。

ゆたか税理士法人

グループ3社からジャパンハートにご寄付いただいており、ジャパンハートの活動の周知にもご尽力いただいています。

ユニリーバ・ジャパン

各種キャンペーンを通じて、医療従事者をご支援いただいたことに加え、医療従事者のためにヘアケア・ボディケア製品を多数ご提供いただきました。

サポート活動によるご支援

TMコミュニケーションサービス株式会社

同社が展開する、家に眠る「お宝」を非営利団体への寄付に変えるプログラム「お宝エイド」を通じ、ジャパンハートの活動全体をご支援いただいています。

ブックオフコーポレーション株式会社

不要になった物品を通じてクラウドファンディングを行う「キモチと。」で、ジャパンハートの活動や、小児がんの認知向上プロジェクトを応援していただいています。

株式会社ラブグラフ

SmileSmilePROJECTで実施する小児がんのお子さんとご家族の外出にプロカメラマンが同行し、写真撮影と思い出のアルバムをプレゼントしていただいています。

会計報告

▶2021年度 活動計算書

2021年4月1日～2022年3月31日　（単位：円）

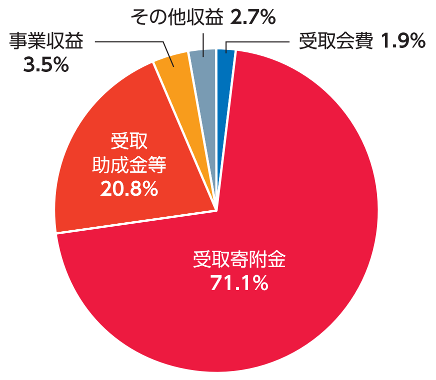
科目	決算額	前年度決算額
Ⅰ 経常収益		
1 受取会費	18,709,007	20,544,003
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	702,610,172	798,131,383
3 受取助成金等	205,559,917	52,045,760
4 事業収益	34,972,256	23,681,507
5 その他収益	26,241,334	6,749,045
経常収益計	988,092,686	901,151,698
Ⅱ 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費	165,605,772	142,966,760
(2)その他経費	258,968,261	398,967,572
旅費交通費	33,596,061	30,828,285
学業・子ども支援費	25,838,205	22,921,685
減価償却費	27,171,655	33,355,100
消耗品費	18,582,980	5,472,107
医療支援・医療器具備品費	29,378,237	22,424,793
地代・家賃	10,649,468	10,486,259
広告宣伝費	31,912,118	35,208,758
その他活動に係る経費	81,839,537	238,270,585
事業費計	424,574,033	541,934,332
2 管理費		
(1)人件費	22,114,163	17,892,023
(2)その他経費	22,430,871	22,255,812
管理費計	44,545,034	40,147,835
経常費用計	469,119,067	582,082,167
当期経常増減額	518,973,619	319,069,531
Ⅲ 経常外収益		
固定資産売却益（海外土地・海外車両）	29,240,901	239,219
経常外収益計	29,240,901	239,219
Ⅳ 経常外費用		
固定資産売却損（国内土地）	-	-
過年度受取参加費返金等	805,922	-
控除対象外消費税等	-	-
経常外費用計	805,922	-
税引前当期正味財産増減額	547,408,598	319,308,750
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	547,338,598	319,238,750
前期繰越正味財産額	799,113,953	479,875,203
次期繰越正味財産額	1,346,452,551	799,113,953

▶2021年度 貸借対照表

2022年3月31日時点　（単位：円）

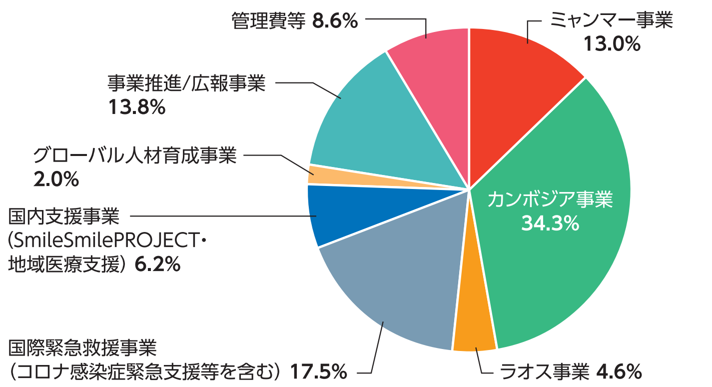
科目	決算額
Ⅰ 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	1,015,331,224
棚卸資産	1,021,247
前払費用	1,757,868
未収金	80,798,795
その他	428,337
流動資産合計	1,099,337,471
2 固定資産	
土 地	406,029
建 物	184,891,635
建物付属設備	28,550,841
工具器具備品	24,853,073
ミャンマー土地賃借権	17,517,610
敷 金	2,134,558
建設仮勘定	14,667,770
その他	18,377,907
固定資産合計	291,399,423
資産合計	1,390,736,894
Ⅱ 負債の部	
1 流動負債	
前受金	-
未払金	39,585,705
預り金	4,513,038
その他	185,600
流動負債合計	44,284,343
負債合計	44,284,343
Ⅲ 正味財産の部	
前期繰越正味財産	799,113,953
当期正味財産増減額	547,338,598
正味財産合計	1,346,452,551
負債及び正味財産合計	1,390,736,894

▶経常収益内訳



※米国The Coca-Cola Foundationによる125万ドル（約1億4千万円）のご支援は「受取助成金等」に含まれます

▶経常費用内訳（国別、事業別）



カンボジア ミャンマー ラオス グローバル人材育成 国際緊急救援 地域医療支援 SmileSmilePROJECT 活動への支援／広報 企業・団体 会計